

明治、大正、昭和における政財界人邸宅庭園についての調査研究

大阪芸術大学 建築学科 教授 福原成雄

1. 研究目的

明治維新後に導入された西洋建築、庭園が政財界人邸宅建築、日本庭園に与えた影響が未整理であることから、明治、大正、昭和における邸宅の建築、庭園を調査し、どのような庭園形態、庭園手法によって作られたのか、西洋庭園が日本文化、日本庭園史にどのような影響を与えたのかを整理し、明らかにするものである。さらに、明治維新後の現存する邸宅建築、庭園が、行政、民間、NPOなどの協働によってどのように保存活用、情報発信されているかについて調査を行う。

2. 研究方法

明治維新後の西洋化に伴って来日した御雇外国人によって、設計された政財界人邸宅の建築、庭園が、以後の建築、庭園形態にどのような影響をもたらしたか、現在どのように維持管理されているのか、保存活用されているのかの調査研究が遅れており、文化財指定（登録有形文化財、名勝庭園など）による地域文化財としての保存活用が急務である。

さらに、本研究は、政財界人邸宅庭園が日本庭園文化に与えた影響が未整理であり、日本庭園史の中での位置づけとその影響が明らかにされていないことに着目した。西洋庭園と日本庭園の空間構成や形態、手法について比較考察し、土木、建築技術の視点からのアプローチをも試みるものである。

明治、大正、昭和における政財界人邸宅などの建築、庭園を調査し、政財界人邸宅の史跡・名勝に対する認識を醸成する機会を創出するとともに、地域文化財としての保存活用を図るために必要な基礎的資料を収集する。また政財界人邸宅庭園の特徴を把握するために、邸宅庭園基礎調査を実施するとともに、これらの邸宅庭園の保存活用を進めるための資料を作成し、その成果を公表する講演会、造園学会発表などを行う。主に関連する建築（登録有形文化財、未指定）・庭園の資料の収集、資料の考察、庭園作図を行う。幾つかの邸宅庭園の現況実測調査を行うことにより、その類似性、時期を少しでも明らかにする。政財界人邸宅庭園については、分布及び詳細調査成果及び地域の分布調査を実施し公開することによって、登録名勝などの保存についての基礎的な資料を作成する。これらの資料作成を通じ、地方自治体担当者の意識向上を含め、史跡や文化財への意識の醸成を図るとともに、庭園の分布調査などを作成する。国内、国外に向けても貴重性をアピールする。邸宅庭園調査によって得られた情報は、今後指定、登録に向けての基礎的な資料になるだけではなく、それを作成する過程で様々な研修活動によって、邸宅庭園における名勝庭園にたいする認識が醸成される。財界人邸宅庭園の保存活用アピールによって、広く地域文化財普及啓発を実施することが可能である。

2019年は、11月6日に愛知県豊田市小坂本町の豊田市美術館童子苑庭園、豊田市小坂本町の登録有形文化財喜楽亭庭園、名古屋市千種区池下町の古川美術館分館為三郎記念館庭園、12月16日に和歌山県日高郡美浜町三尾の民家、12月27日に大阪府和泉市内田町久保惣記念美術館露地、2020年1月20日、21日に熊本市中央区水前寺公園水前寺成趣園、水前寺江津湖公園（旧砂取細川邸庭園）、熊本市西区島崎の叢桂园、釣耕園、三賢堂公園、熊本市中央区古城町の清爽苑、2月3日、4日に山口県萩市大字堀内東園牡丹園、菊屋家書院庭園、伊藤博文旧宅、松村下村塾等の現地調査、資料収集を行なった。これら調査は、復元工事の進め方、史跡の維持管理、保存活用の方法がどのように行われているかを明らかにするものである。

3. 現地調査

1) 喜楽亭庭園

所在地：豊田市小坂本町1-25

作庭年代：明治時代後期 昭和57年現在に場所に移築復元
作庭者：不明 庭園様式：池泉式庭園 建築面積：150m²

喜楽邸は、明治時代後期から昭和42年まで続く豊田市神明

町にあった料理旅館で、大正時代を代表する町屋建築である。昭和57年に現在の場所に移築復元されている。移築復元状況を調査した。

2) 川美術館分館為三郎記念館庭園現況調査概要

所在地：名古屋市千種区池下2丁目50

作庭年代：昭和初期

作庭者：古川為三郎 庭園様式：池泉回遊式庭園、茶庭
名古屋、東海で様々な事業で財を築いた実業家古川為三郎によって昭和初期に建てられた数寄屋建築「為春亭」、茶室「知足庵」に造園され庭園が平成7年に一般公開された。

「知足庵」は織田有楽斎が建てた国宝の茶室「如庵」をモデルにしている。庭園の維持管理と運営状況を調査した。

3) 水前寺成趣園調査概要

所在地：熊本市中央区水前寺公園8-1

作庭年代：寛永13年(1636)～正徳2年(1712)

作庭者：不明 庭園様式：池泉回遊式 国指定名勝

江戸時代初期、肥後熊本藩主細川忠利によって建てられた御茶屋庭園から築かれ、細川家代々に受け継がれた熊本を代表する大名庭園である。阿蘇からの湧水を水源として池庭を配置し、大胆に霊峰富士山を中心に、大小様々な築山を池周囲に造成する庭園技法は見事である。庭園内には、細川家歴代の藩主を祀った「出水神社」、「能楽殿」、「古今伝授之間」が建てられている。庭園の維持管理状態を調査した。

4) 旧砂取細川邸庭園現況調査

所在地：熊本市中央区出水2-5-1

作庭年代：明治時代

作庭者：不明 庭園様式：池泉回遊式庭園

明治時代、10代藩主細川斉護の正室「顕光院」の隠居所としてこの地に建てられた。建物は、大正時代に料亭になり、昭和になり屋敷は解体されている。現在は熊本県立図書館内の庭園として残されている。周辺には、旧東濱屋跡庭園、細川藩家老有吉家別邸庭園等があり、庭園の保存研究する事例である。

5) 釣耕園、叢桂园、三賢堂公園現況調査

所在地：熊本市西区島崎5-15-8

作庭年代：江戸時代中期

建築：江戸時代

作庭者：不明 庭園様式：池泉回遊式庭園

細川家三代藩主綱利が御茶屋をこの地に建て、庭園整備を行った。保存管理の状況を調査した。

6) 伊藤博文旧宅、伊藤博文別邸現況調査

所在地：萩市椿東1511-1

建築：明治40年(1907) 作庭者：不明 庭園様式：平庭

伊藤博文旧宅は、明治元年(1868)まで生活をした場所である。別邸は、東京府下荏原郡大井村(現：東京都品川区)に建てられた一部をこの地に運んで移築復元したものである。文化財の変遷、管理状況を調査した。

7) 萩城内花江茶亭、東園跡庭園現況調査

所在地：萩城跡指月公園内 作庭年代：明治22年(1889)

作庭者：不明 庭園様式：茶庭、枯山水 未指定

旧三の丸に建てられていた13代藩主毛利敬親の別邸「花江御殿」にあった茶室「自在庵」を移築復元した。東園跡庭園は、六代藩主宗弘によって作られた池泉回遊式の名大庭園である。庭園の移築復元、管理状況を調査した。

8) 菊屋家住宅現況調査

所在地：萩市呉服町1-1 作庭年代：慶長9年(1604)

作庭者：不明 庭園様式：枯山水 未指定

萩藩の御用商人で、豪商菊屋家で、現存する商家では最も古い物である。庭園は江戸時代から昭和初期に作庭された。明治32年には伊藤博文も宿泊している。文化財庭園の変遷、管理状況を調査した。